

令和元年6月29日現在

機関番号：34420

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K04020

研究課題名(和文) ケアワークにおける高齢者の主体性を支援する研究：自己決定に焦点を当てて

研究課題名(英文) A study on respecting the autonomy of the frail elderly in Japan: focus on their self-decision

研究代表者

笠原 幸子 (KASAHARA, Sachiko)

四天王寺大学・人文社会学部・教授

研究者番号：50342192

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：研究目的は高齢者が主体的に生きる社会を求めて、高齢者の思い、そして、専門職(介護福祉士と介護支援専門員)の支援について明らかにする事である。  
 高齢者はこれまで生きてきたプライドの上に、価値観が確立されていた。今を楽しみ、できる事に向き合うコーピング力が重要である事が明らかになった。  
 専門職の支援では、馴染みの関係づくり、高齢者の強みの把握、自己決定を引き出す支援が重要である事が明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

加齢に伴う心身機能の低下と地位や役割の変化に適応しつつ、生活を再編成することが求められている高齢者の思いの具現化は、高齢者のQOLの向上に寄与すると共に、高齢者の自律生活の継続に連動すると考えられる。また、高齢者の主体性を尊重する具体的支援の明確化は、高齢者を日常生活を支援している専門職(介護福祉士や介護支援専門員)の専門性の向上に寄与すると共に、介護福祉士や介護支援専門員の社会的評価が高まる。

研究成果の概要(英文)：The objectives of current study are to clarify, 1) the thought for their autonomy life of the frail elderly, 2) the structure of practice respecting the autonomy of the frail elderly under the Long-Term Care Insurance system in Japan and the related factors to. The thought for their autonomy life of the frail elderly was the related to the amount of their coping abilities.  
 The professionals practice respecting the autonomy of the elderly was confirmed associating with three-factors structure; (1) professional relationship with the familiar, (2) strength perspective and (3) draw out their thought from the frail elderly. The current study supported the hypothetical consideration in which self-esteem and self-reflection in professionals' practice significantly affected the practice respecting the autonomy of the frail elderly.

研究分野：社会福祉学

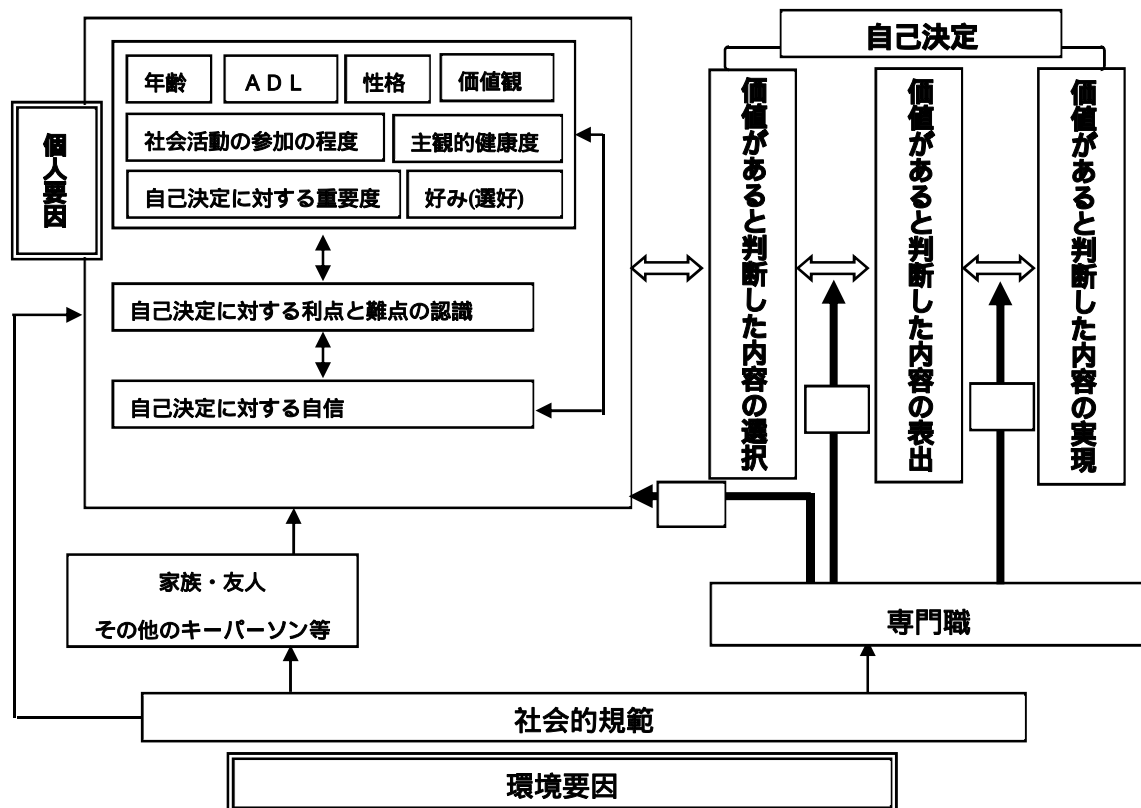
キーワード：高齢者福祉 主体性 自己決定 意思決定 自律・自立 介護福祉士 介護支援専門員 ストレングス視点

### 1. 研究開始当初の背景

これまで、研究代表者は、認知症高齢者の自己決定に対する具体的支援技術として、高齢者の意向に即した選択肢を用意する質問形式が適切であること、高齢者の聴覚、視覚、味覚、触覚等、複数の伝達の媒介手段を活用する支援が有効であること、高齢者のケア場面での自己決定を促進するためには、ケアワーカーのアセスメント能力や高齢者とケアワーカーとの人間関係が重要であること、ケアワーカーが行うアセスメント能力を向上させるためには、「援助関係の形成」と「ホリスティック視点」が関連していることを明らかにした。課題として、認知症高齢者の自己決定を促す声かけの方法などは明らかになったが、認知症高齢者よりも自立度の高い高齢者の自己決定の実践過程で、彼らの主体性を尊重しつつ、高齢者の最も身近に存在する専門職(介護福祉士や介護支援専門員)の適切な支援が明らかになっていなかった。

そこで、以下のような概念図を描き、高齢者の主体性を尊重した自己決定の支援をプロセスで捉え、各フェーズにおける専門職の関わりについて検討することとした。

図1 高齢者の自己決定実践過程と専門職の支援(仮説)



は、高齢者へ「自分自身の意志と役割を持っていること」を伝え、支援する。

は、高齢者自身の「語り」を支援する。

は、高齢者の「主体的実行」を引き出す支援をする。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、高齢者が主体的に生きる社会を求めて、身体機能や認知機能が低下してくる高齢者の「過ごしてきたこれまで、今、これから：人生」の捉え方を「主体性」「自己決定」の文脈から理解する、主体性を尊重する支援をプロセスで捉え、各フェーズにおける専門職の関わりについて検討することである。

### 3. 研究の方法

- (1) 研究期間内において「ケアワーク研究会」を開催する(2ヶ月に1回)。
- (2) 研究代表者が所属する機関の研究計画倫理審査委員会にて、質的調査及び量的調査に関して審査を受け、承認を得る
- (3) 主体性や自己決定等に関する資料を、日本国内外から収集し文献研究する。

- (4) 研究協力者が勤務している養護老人ホーム、ケアハウス、通所介護事業所等の利用者(要支援1・2)とケアワーカーを対象に、半構造化面接法を用いた質的調査を実施し分析を行う。質的研究方法によって、自己決定実践過程とケアワーカーの支援を明らかにする。さらに、その結果に基づき、量的調査の質問項目を検討する。
- (5) 質的調査から得られた知見に基づき、研究協力者が勤務している施設等のケアワーカーを対象に、フォーカスグループインタビューとグループスーパービジョンを実施する(スーパーバイザーは研究代表者等)。
- (6) A県介護福祉士会会員及び居宅介護支援事業所の介護支援専門員を対象に、郵送法により量的調査を実施し、得られたデータは、多変量解析及びパス解析を行う。量的研究方法によって、自己決定実践過程とその構造を明らかにする。
- (7) 報告書を作成する。研究成果を所属学会で、論文発表・口頭発表する。さらに、公開講座等を開催し、社会へ発信する。

#### 4. 研究成果

高齢者はこれまで生きてきたプライドの上に、価値観が確立されていた。大変だった経験も含めて、さまざまな人とのかかわりを、「恵まれていた・良かった」等と認識し、人生を「肯定的幸福感」で捉えていた。また、今の自分の体力や健康面を「客観的受容」していた。そして、「助けてもらえるところは助けてもらおう」と割り切り、今を楽しみ、できる事に向き合って、今を精一杯過ごしている「コーピング力」が重要であることが明らかになった。

一方、専門職の日常生活における自己決定支援では、「馴染みの関係づくり(3項目で構成)」、高齢者の強みの把握(9項目で構成)、「自己決定を引き出す支援(7項目で構成)」が重要である事が明らかになった。つまり、仮説において、「高齢者へ「自分自身の意志と役割を持っていること」を伝え、支援することによって重要なことは、専門職が自らの心を開いて接したり、対等な関係であることを意識して実践したり、高齢者が自分の思いが表現しやすいように、雰囲気づくりに配慮したりすることであり、「高齢者自身の「語り」を支援することによって重要なことは、高齢者の考え方の傾向を把握したり、高齢者を支えている協力者を把握したり、高齢者が願っている事柄を把握したりすることであり、「高齢者の「主体的実行」を引き出す支援によって重要なことは、自分で「やりたい」、「決めたい」という思いを大切にしたり、高齢者が自分で決められるように、選択肢を提示したり、高齢者が自分で「決めたい」とか「できた」という感覚をもってもらうことを大切にしたりすることであった。

また、これらの支援を高めるため、専門職に求められる要因として、自身の実践を振り返る姿勢、仕事上の起こりうる状況を予測しながら仕事をする、新しいことに対する好奇心を持つことが明らかになった。

上記のように、加齢に伴う心身機能の低下と地位や役割の変化に適応しつつ、生活を再編成することが求められている高齢者の思いの具現化は、高齢者のQOLの向上に寄与するとともに、高齢者の自律・自立生活の継続に連動すると考えられる。また、高齢者の主体性を尊重する具体的支援の明確化は、高齢者の日常生活を支援している専門職(介護福祉士や介護支援専門員)の専門性の向上に寄与するとともに、介護福祉士や介護支援専門員の社会的評価が高まると考えられる。

#### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計5件)

- (1) 笠原幸子, 准高齢者のサクセスフル・エイジングへのアプローチ: ソーシャルワーカーの視点, 四天王寺大学紀要, 査読有, 第67号, 四天王寺大学紀要編集委員会, 2019, <http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/toshokan/>.
- (2) 渡邊康夫・笠原幸子, 主体的に学ぶ介護福祉士のキャリア形成過程に関する研究, 四天王寺大学大学院研究論集, 査読有, 第13号, 2019. <http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/toshokan/>
- (3) 渡邊康夫・笠原幸子, 主体的に学ぶ介護福祉士の職業的アイデンティティ形成過程に関する研究, 四天王寺大学大学院研究論集, 査読有, 第12号, 2018, <http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/toshokan/>.
- (4) 笠原幸子, 虚弱高齢者の生活行動における自己決定に関する研究 具体的支援方法に焦点をあてて, 四天王寺大学紀要, 査読有, 第62号, 四天王寺大学紀要編集委員会, 2016, <http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/toshokan/>.
- (5) 笠原幸子, 認知症の人の暮らしを支える介護保険制度; 関連法との関係に焦点を当てて, 認知症ケア事例ジャーナル, 査読無, Vol. 8 No. 4, 一般財団法人日本認知症ケア学会, 2016.

〔学会発表〕(計 12 件)

- (1) 畑智恵美・笠原幸子, The structure of care manager 's practice respecting the autonomy of the frail elderly in Japan, Gerontology Society of America 2019 Annual Scientific Meeting(Austin Convention Center), 2019 年 11 月 13 日 ~ 17 日, 受理済発表予定.
- (2) 笠原幸子・畑智恵美, 高齢者の自己決定の関連要因に関する研究 - 地域で生活している高齢者対象のアンケート調査を通して -, 第 66 回日本社会福祉学会全国大会(大分大学), 2019 年 9 月 21 日, 受理済発表予定.
- (3) 畑智恵美・笠原幸子, 活動的な高齢者のコーピング力の構造と関連要因 - 地域の高齢者活動拠点参加者へのアンケートを通して -, 第 66 回日本社会福祉学会全国大会(大分大学), 2019 年 9 月 21 日, 受理済発表予定.
- (4) 渡邊康夫・笠原幸子, 介護福祉士の職業キャリア成熟に影響する要因に関する研究 リフレクションに焦点を当てて -, 第 27 回日本介護福祉学会 (静岡県立短期大学), 2019 年 9 月 1 日発表予定.
- (5) 笠原幸子・畑智恵美, 高齢者の意思決定を尊重する介護福祉士の実践構造と影響要因: A 県介護福祉士会の量的調査より, 第 61 回日本老年社会学会 (東北福祉大学), 2019 年 6 月 7 日, 受理済発表予定.
- (6) 畑智恵美・笠原幸子, 高齢者の主体性を尊重するケアマネジャー(介護支援専門員)の実践構造 ~ A 市内の介護支援専門員の実践に焦点を当てて ~, 第 61 回日本老年社会学会 (東北福祉大学), 2019 年 6 月 8 日, 受理済発表予定.
- (7) 渡邊康夫・笠原幸子, 学びに対する意欲に影響する要因に関する研究 介護福祉士に焦点を当てて -, 第 26 回日本介護福祉学会 (桃山学院大学), 2018 年 9 月 2 日.
- (8) 笠原幸子, 高齢者の自己決定に関する研究 - 介護福祉士の支援の構造 - 第 43 回岡山県介護福祉研究会・第 37 回中国四国介護福祉学会(岡山県生涯学習センター), 2018 年 6 月 9 日.
- (9) 笠原幸子・畑智恵美, 高齢者の自己決定を支援する研究 - 介護福祉士の支援に焦点をあてて -, 第 65 回日本社会福祉学会全国大会(首都大学東京), 2017 年 10 月 22 日.
- (10) 畑智恵美・笠原幸子, 高齢者が主体的に生きる意味を考える - 在宅高齢者へのインタビューを通して -, 第 65 回日本社会福祉学会全国大会(首都大学東京), 2017 年 10 月 22 日.
- (11) 渡邊康夫・笠原幸子, 主体的に学ぶ介護福祉士のキャリア形成過程に関する研究, 第 25 回日本介護福祉学会 (岩手県立大学), 2017 年 9 月 30 日.
- (12) 笠原幸子, 虚弱高齢者の生活行動における自己決定に関する研究 - ケアワーカーによる支援に焦点をあてて -, 第 64 回日本社会福祉学会(佛教大学), 2016 年 9 月 10 日.

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年:  
国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年:  
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：畑 智恵美

ローマ字氏名：(HATA, Chiemi)

所属研究機関名：四天王寺大学

部局名：人文社会学部

職名：准教授

研究者番号(8桁): 20368377

## (2)研究協力者

「ケアワーク研究会」のメンバー

山下 恵利子 (YAMASHITA Eriko)

田中 幸子 (TANAKA, Sachiko)

緑間 百合子 (MIDORIMA, Yuriko)

山田 京子 (YAMADA, Kyouko)

三宅 奈津子 (MIYAKE, Nathuko)

山下 啓子 (YAMASHITA, Keiko)

氏家 幹夫 (UJIE, Mikio)

原 健一郎 (HARA, Kenichirou)

村井 潤 (MURAI, Jhun)

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。